



# テーマは、コミュニケーション

コミュニケーションが大切なのは誰もがわかっていること。

でも、それを行うことは意外と難しかったりします。

「地球のドクター」オオスミが行っている

コミュニケーションについて、

様々な角度からご紹介いたします。

人と人を、つなぐ、つながる



## ご挨拶



北アルプスにて環境を考える

株式会社 オオスミ

代表取締役 大角 武志



## 私たちが目指す道

Osumi Way  
2019

株式会社オオスミは昨年の11月に創業50年を迎えることができました。これはひとえに、これまでお世話になりましたお客様を始め、取引協力業者の皆さま、そして社員とご家族の皆さまのお蔭と感謝申し上げます。

## 増え続ける環境問題に対して

オオスミは50年の大きな節目を迎えた訳ですが、これは地球誕生からの歴史の中ではほんのわずかな期間でしかありません。しかし、この数十年は地球上の生命にとってはとても変化の大きな時期だと感じています。私たち人間が利便性を追い求め、経済成長を中心に進んできたその裏では、生物だけでなく私たち人類にも悪影響を及ぼす環境汚染が広がっています。

私たちが50年間にわたり対峙してきた環境問題は、いわゆる公害系といわれる化学物質などによる汚染が中心でした。最近では、これらの汚染・汚濁だけではなく、エネルギー問題や海洋のごみ問題なども注目され始めました。先日読んだ新聞の記事によると、2050年には海洋プラスチックは海を泳ぐ魚の重さを上回るそうです。

私たちオオスミ、そして環境問題に直面する全ての企業が、次の50年でこの現状にメスを入れていかなければならないと私は考えています。ビジネスとして中小企業一社がいくら頑張っても、焼け石に水かもしれません。でも同じ思いを持った企業同士がつながり、目標を掲げ、達成することでこの地球を良い方向に戻すことができると信じています。環境や開発に関する国際目標であるSDGsは、地球上の全ての人たちの合言葉だと思っています。

## 地球とのコミュニケーション

最後に、今回のイヤブックスのテーマ『コミュニケーション』を受け、より良い環境づくりのために一言お話しさせていただきたいことがあります。それは、一人ひとりが地球とのコミュニケーションを上手にとるにはどうしたらよいかを考え、そして実践することで、企業や行政を動かし、多くの人を巻き込んでいくことがとても大切だということです。

次の50年、さらに飛躍する機会とし、創業100年のイヤブックスには、地球の環境がこんなに良くなったという記事がたくさん見られることを期待しています。

Overseas  
海外事業

## 国際化とコミュニケーション

## ベトナムでの生活

ベトナム駐在所所長 佐上 裕俊

ベトナム・ダナン市にて駐在員としての生活をはじめ、4か月が経とうとしています。イヤブックスのテーマとなっているコミュニケーションの視点から、ベトナムでの生活を報告したいと思います。

## ベトナム人はおしゃべり好き

まずベトナム人は、基本的にコミュニケーションを取ることが好きです。ベトナムでは市内・市外を問わず、実に多くのコーヒーショップがあります。そこにふらっと訪れて、コーヒーを飲みながら会話を楽しむ。それがベトナム人のお気に入りのようです。ちなみに、ベトナム人の若者のデートスポットには、必ずコーヒーショップがランキング上位に挙げられます。

おしゃべり好きなベトナム人に付き合っ、私も話したいのですが、残念ながら私の語学レベルが足りていません。とはいえ、外に出るとほぼ日本語も英語も通じない状況でなんとか過ごしています。

こんな失敗談もありました。ある日、仕事の打合せ後、タクシーを拾ってオフィスに戻ることにしました。オフィスのあるビルは「F HOMEビル」というので、タクシーの運転手に「エフホーム」と伝えました。疲れもあり車内で寝てしまったのですが、起きるとそこはなんと空港でした！どうやら運転手には「エフホーム」が

「エアポート」に聞こえたようでした。

そんな大変なコミュニケーションですが、頼りになるのがGoogle翻訳アプリで、音声で日本語からベトナム語や英語に翻訳してくれます。長い文章はともかく、短くて意味だけを伝えたいときはこれで十分です。近い将来、こういうアプリを使って自動翻訳による会話が普通になるのかもしれないですね。(そうなることを願っています)



こちらに来てから日が浅く、十分なコミュニケーションはまだまだ足りていないような気がしますが、少しずつ前に進んでいこうと思っています。

## 現地で思うこと

最近ではベトナム在住の日本人とのコミュニケーションも大切だと感じています。みんな駐在ならでの不安や苦しさを持っているからです。お互い助け合いながら一緒にビジネスも進めていく。今後は、そのようなコミュニケーションをとっていければ良いと思っています。



▲オフィス近くのコーヒーショップ。このような小さなお店が町中にあります。



▲ダナン市内のタクシー。ドライバーは気さくな人が多いですが、ほぼベトナム語しか通じません。

# 特別コラム

With Communication!



先日、ある方がこんな話をしてくれました。  
「道に迷っている方に声をかけられた時、どうして自分で調べようと思わないんだろうと思いました」  
なるほど、ググル世代ですね。人に訊いた方が早いと思う方もいれば、まず自分で調べようという方がいるわけです。皆さんはどちらですか？

この話をしてくれたのは20代前半の方で、1995年以降に生まれた「Z世代」。幼少期からスマートフォンに馴染み、タブレット端末で遊んできました。アプリやスタンプも作っちゃいます。何かあるとすぐに調べる(ググル)彼らからすると、道は地図アプリが教えてくれるのであり、人に訊くことなんて想定もしていません。

## 人の価値観に影響を与える「環境」

今、社会では世代間のコミュニケーションギャップが生まれています。パワハラ、セクハラ、マイノリティに対する配慮のない言動の根本には、価値観の違いがあると考えられます。

人の価値観に大きな影響を与えるのは「環境」です。「団塊」「バブル」「団塊ジュニア」「ロスジェネ」「ゆとり」「さとり」「ミレニアル」…成長段階で何を見て、何の話を聞き、大人とどう関わってきたか。代表的なアニメを用いて、ゆとり=ワンピース世代、そこから年齢が上がるとガンダム世代、ドラえもん世代、巨人の星世代と説明することもあります。

どう在るべきか、どのように振舞うべきか、小さい頃に教えられたことは、その後に大きく影響します。本人が選んだのではなく、時代が変わってきたのです。それを踏まえて、自分の価値観を押し付けるのではなく、尊重しあい豊かさに変えていきたいものです。

では、どうしたらいいのか。そもそも違うということから始めます。

### 1. 敬意を持つ (リスペクトする)

どんな人にも、自分がもっていない素晴らしいものがあるはず。仮にベテラン世代が知識も経験も豊富だけど最新IT技術に疎いのなら、若い世代に助けを求めましょう。若い世代はベテラン世代から物事の習得の仕方や危機の乗り越え方を学べばよいのです。無いものを補完し合う関係性の中で、分かり合えるのだと思います。足し算より掛け算! 認めあい、違いを受け入れて、有益なものに変えていく。ギャップはアイデアを生む原動力です。

### 2. 体験をメタファーでさりげなく、パワフルに

人の心を動かすのは体験談。すごくパワフルですが、違う世代には単なる昔話や押しつけと伝わることもあります。「部長はすぐに、自分の時にはな〜って言うんだよね、今の時代は違うのに…」なんて話になりかねません。そのためには体験談を普遍的なレベルまで引き上げ、相手の気づきと行動変容に繋げることが必要です。その時に使うのがメタファー、「直喩・隠喩」「擬人化」「引用・格言」「寓話・逸話・物語」などです。メタファーを使うことで利害関係が薄れ、素直に受け取ってもらえるので、コミュニケーションが良くなります。「あの時に言ってもらった言葉が忘れられません」なんて言われたら嬉しいですね。

### 3. 「Why」を大事にする

若い世代は、なぜするのか、その先に何があるのかを納得しないと進めないことが多いです。「いいからやれ」「会社の決定だから」などというのなら一気に引きまわります。「Why」によって、スイッチが入ります。

上の世代も本当はそうです。経験によって予測がつくので不安にならないだけで、何のためか分からないことには行動しにくいのが普通なのです。「飲みニケーションが廃れてきている」と嘆く上の世代がいますが、行く意味や価値が感じられなければ断ります。参加することで、日々の仕事にどんなプラスがあるのかを説明すれば考えも変わります。面倒くさらず、Whyをしっかりと語っていきましょう。

### 4. 共通のビジョンを持つ

成し遂げたいこと、作りたい世界にワクワクすれば、多少の辛いことも頑張れます。その結果生み出されるものは、集団の成長と個人の成長です。そのストーリーを実感できた時に初めて、プロセスに価値が生まれます。ビジョンの共有は、同じ夢を持つ仲間になるためになくてはならない要素なのです。

### 5. 「与える人」になる

立場や役割にとらわれず、自分が出来ることをやりましょう。挨拶、声かけ、励まし、情報提供など、お金をかけなくてもやれることはたくさんあります。与える人になるためには、相手に今何が起きているのか、どのような状況なのかを見きわめなければなりません。関心も寄せなければなりません。その中で成長することができるのです。「与える人」が一番お得って知っていましたか？

人は年齢を重ねるにつれ、当然ながら過去の経験が増えていきます。でも時代はどんどん新しく変化していきます。変わる未来は過去のパターンだけでは乗り切れません。違いや多様性は新たな価値を生むと考えると、奇跡的に出会った周囲の方とのより良い関係を築いていきましょう。



キャリアデザインオフィスサブナ代表

三浦 睦子

特定社会保険労務士  
国家資格キャリアコンサルタント  
産業カウンセラー  
日本アチーブメント協会認定トレーナー  
LEGO® SERIOUS PLAY® トレーニング修了  
認定LSPファシリテーター

## Profiles

福島県会津若松市出身。  
大学卒業後に大手不動産デベロッパーでの管理部門から社会人をスタート。「企業組織と個人の成長」をテーマとして考え始め、私立高校教諭、人材サービス会社の教育トレーナーを経て、2011年に独立。雇用の問題、特に「起業組織と個人の成長」をテーマに、キャリアコンサルタントと社会保険労務士を軸に制度設計や研修・個別指導を行っている。キャリア支援実績は、のべ1万人以上に上る。昨今の働き方改革、多様化を踏まえ、選ばれる企業と個人の支援、自分の人生にオーナーシップを持った人材の育成を目指して活動している。

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催! Vol.5

### コミュニケーションで最高のパフォーマンスを

2020年東京オリンピック・パラリンピックが2年足らずでやってきます。オオスミの本社がある神奈川県でも、江の島のヨットハーバーがセーリング、横浜スタジアムが野球とソフトボール、横浜国際総合競技場がサッカーの競技会場となります。

選手たちは取り組んできた努力の成果を発揮してくれることでしょう。メダルの色やタイムなど、それぞれ目標は異なると思いますが、

参加する選手たちには悔いの無いパフォーマンスを発揮してもらいたいものです。

その選手たちを支えるのは、コーチや監督、大会運営スタッフだけでなく、私たち観客などその瞬間に関わるすべての人々です。

例えば、陸上フィールド競技で試技に臨む選手が観客に手拍子を求めるシーンは、選手が会場の力を自身の力に変える瞬間でもあります。

選手たちが力を発揮できるよう、会場を整え、オフにはリラックスできる環境を作り、競技中は精一杯の応援。そうした選手たちと周りのコミュニケーションが最高のパフォーマンスを生み出すでしょう。

私たちオオスミが環境調査会社として関わった施設も、選手たちや観客たちを迎え入れることになるのでわくわくしてきます。

今後も、観客として応援するだけでなく、史上最高の持続可能な大会となるよう環境問題の改善・解決に取り組み、大会運営に貢献できるよう努めて参ります。



お客様とのコミュニケーション

# 会話の中から生まれた改善

お客様とのコミュニケーションから、新しいアイデアが浮かんだり、新発見がありました。実際に業務の改善につながった例をご紹介します。



Communication Point 1

**土の取り方がわからないよ。**

お客様

図解してみようか？



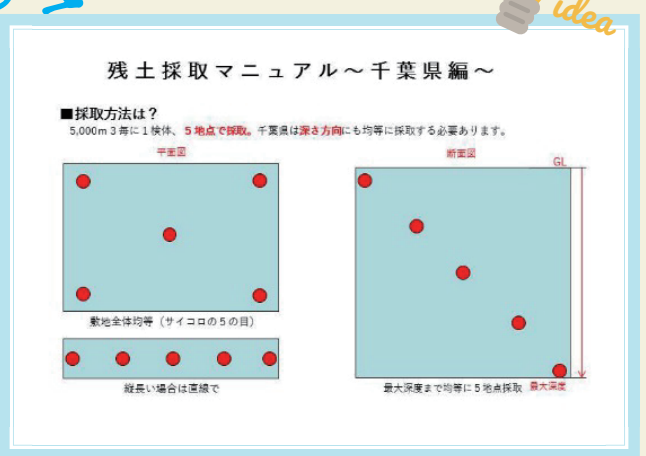
建設発生土のご依頼を頻りに頂いているゼネコンの総括責任者様とお会いしたときに「搬出先によって試料の数、採取地点、採取深度、提出書類が異なるからわからない」といった話になりました。

お客様の過去の搬出先を調べると、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県の4県が主体でした。

そこで、今まで申込書で使用していた裏面に各県別に出されている採取マニュアル（採取方法や保管方法、写真の撮り方を図解入りで解説しています）を入れてみました。

運用後すぐに、「問い合わせの手間が減った」「図解入りでわかりやすい」と好評を得ることが出来ました。

営業グループ 相馬 秀樹



▲申込書の裏面に「図解入り採取マニュアル」をいれてみました！

**アスベスト測定報告書をもっとわかりやすくできないかな？**

お客様

Communication Point 2

用語集つけたり、写真入れましょうか？



大気汚染防止法に伴うアスベスト除去工事は、アスベスト測定が義務付けられ、アスベスト除去工事完了後に所轄の官庁へ測定結果を提出することが法律で定められています。

ゼネコンの担当者様が「官庁の担当者の方がわかりやすい報告書になったらいいのに」と話していました。

アスベスト測定報告書は専門的な用語を使用する

測定機器が分かりにくく、一般の方（官庁の担当者様）は、更に分かりにくく感じられると思います。そこで、報告書の巻末に専門用語の解説、測定機器写真を載せて分かりやすくしました。

ゼネコンの担当者様より「誰が見てもわかりやすい報告書になったね」と言われ、今では最新の条例やマニュアルの改正に対応しています。

調査第一グループ 加藤 雅信



**コンデンサは、穴をあけちゃうから採油が出来ないよね？**

お客様

コンデンサの銘板調査では、どうでしょう？



PCB廃棄物の処理期限が迫る中、自社にどれだけPCB廃棄物が残っているか確認したいという相談を受ける事が多くなってきました。

変圧器は一般的に絶縁油を交換できるようハンドホールという蓋が設けられているため、それを利用して絶縁油を採取し、PCBの有無を廃棄物になる前に確認する事が可能です。

しかし、コンデンサにはハンドホールが無く、採油

は機械に直接穴をあける必要があります。

ある時、設備担当者様とお話した時に「コンデンサは、穴をあけちゃうから採油が出来ないよね？」と言われました。「そうですね。穴をあけると再使用が出来なくなってしまうので・・・」と今までは返答していたのですが、「それでも、なんとか今、出来る限りの事をやっておきたい！何かできないか？」とお困りの様子。



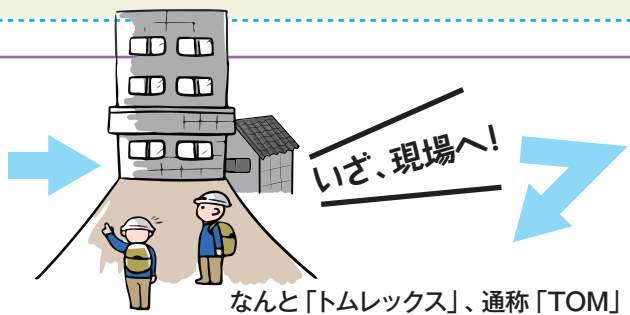
調査第一グループ 外間 和人

もしもアスベストがしゃべったら 調査第一グループ 坂本和義

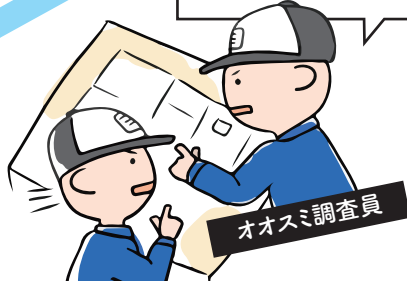
## 図解 オオスミ建物調査員の戦い！

さあ、今回はどんな建物を調査するのだろうか

なるほど1965年竣工の3階建てRC造だな。吹付けがあるじゃないか。スレート板もケイカル板も結構ありそうだな～。



なんと「トムレックス」、通称「TOM」ではないか!!しかも青だ。



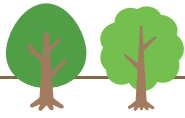
分析中のコミュニケーション

# 調査対象の声を聴く

オオスミの技術者は、日々、数値や水、土地、アスベストといった寡黙な調査対象と、対話をしています。そこに、どんなストーリーが隠れているのか、じっと耳を澄ませ、声を聴きコミュニケーションをしています。

## 土地との対話

今回は、私が担当する土地利用履歴調査から、「土地」とのコミュニケーションについて書いてみたいと思います。



調査第一グループ 碓井 幸成

「土地利用履歴調査」は土壌の分析などを行わず、地図や資料などから、その土地の汚染リスクについて評価を行うものです。

地図などの資料や、お客様から頂いた情報は、概して断片的（たとえば、昭和40年の地図では、あくまでその時代の情報しかわかりません）です。しかし、このような情報を積み上げていくことで、調査対象地が、明治・大正から現在まで、どのような歩みをたどってきたのか、一つのストーリーとしてつながります。そうすると、「昭和初期頃までは海だったけど、埋め立て

されて、今ではビルやマンションが建ち並ぶ市街地になったんだよ」と、土地が声を出して、語りかけてくるような気分になります。

しかしながら、「土地」も人間同様に十人十色であり、一つとして同じものはありません。そして、「土地」の声を聴いたとしても、内容を正確に理解し、お客様にお伝えできなければ意味がありません。まだまだ「土地」の声を聴く技術も、伝える技術も未熟な私ですが、いかに正確に土地の言葉を理解し、わかりやすくお客様に伝えるか…今日も修行が続きます。

## 水との対話



分析技術グループ 松川 晋弥



お客様の排水調査では、3つのタイミングで水との対話をしています。それぞれのタイミングで、水質の変化に気付くことができるのです。



まずは採水のタイミングです。周辺の状況、排水の色、におい、流量、性状などがいつもと異なる場合です。

次に分析を行っているタイミングです。分析中、いつもと異なる反応が起きる場合です。

最後は分析結果確定後のタイミングとなります。基準値超過や過去の結果と大きく異なったり、安定して推移していた数値が上昇傾向にあるなどの数値の変動がある場合です。

もちろん、普段のお客様との対話も、水とのコミュニケーションを深めてくれる大事な要素です。水との対話から得た結果を参考にすることで、お客様の気になっていることが解決できたり、大きな問題が起こる前に対策を行うなど、お客様のお役に立つことができるのです。

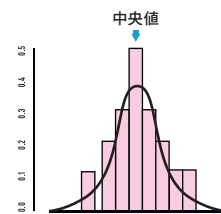
## 数値との対話

3 4 5

分析技術グループ 管 雅英



分析は、手順通りに行えば数値が機械的に出てきます。しかし、そのままでは単なる「数字」でしかありません。いくら高性能の分析装置でも、目的成分に似た物質があれば誤って判定してしまうこともあります。また、目的成分の濃度が高すぎて適正な測定範囲を外れた場合でも、数値は出力されてしまいます。出力された数値の中身を読み取り、試料の状態、希釈や濃縮の倍率など様々な角度から確認することが必要ですが、それだけでは分析結果の品質としては不十分です。品質の良い分析結果をたとえて言えば、「弓の名人は、置かれた状況に関わらず、何本矢を放つても常に的の中心付近を射抜く」という状況に似ています。



私たちは、ばらつきが小さく、偏り（中心からのずれ）が小さい分析値の精度（図の矢印）を保つため、日頃から社内で行う「内部精度管理」で値のばらつきを監視し、同一試料を全国の分析機関で一斉に分析を行う「外部精度管理」で偏りを確認して信頼性の担保としています。

分析で得られた数値とのコミュニケーションを深めることで命を吹きこみ、精度管理を継続的に行うことで品質向上に努めています。弓の名人となるために。

## 建物との対話



調査第二グループ 飯島 政明



依頼されたガタイの良い建物の前に腕組みして直立不動。しかし、立派な見た目に反して、苦しそうな表情が見て取れる。

中に入ると、20年物の空調機（エアコン）や蛍光灯などのエネルギー消費設備がうなりをあげながら、何の管理（調整）もされずフル運転。

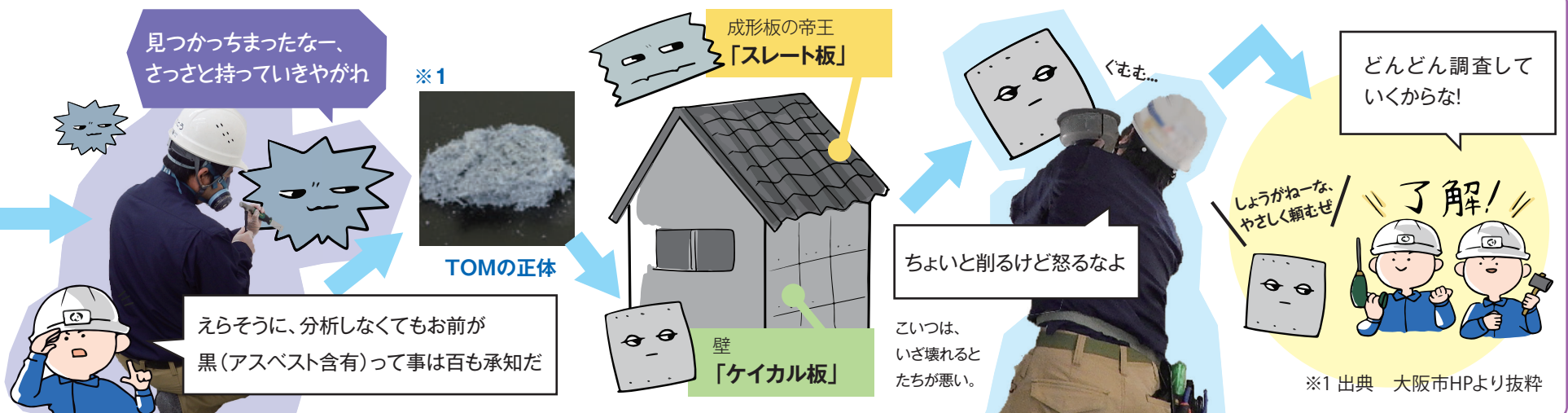
至る所から、エネルギーロスという悲鳴が聞こえてくる気がする。

予想通り…。さあ、どこから診ていこうか…

と、こんな感じで仕事に入っていきます。

人も建物も似たようなところがあり、年季が経つにつれ、いろいろと無駄なものが増えてきます。中年になるとお腹周りの贅肉が気になるように（汗）、建物もエネルギーの無駄遣いが目に見えてきます。一概には言えませんが、大きな建物ほど内部のリニューアルには費用がかさむ傾向にあります。場合によっては、新築するよりも費用がかかります。

だからこそ、今の設備（身体）を点検（健康診断）しながら、上手く運転（自身の個性や特徴を知る）することに大きな意味があるのです。長期間の稼働（長生き）を可能にするために、私たちは建物に対してもドクターとして、状況にあった治療法（対策）を提案すべく、日頃から建物の声に耳を傾けています。



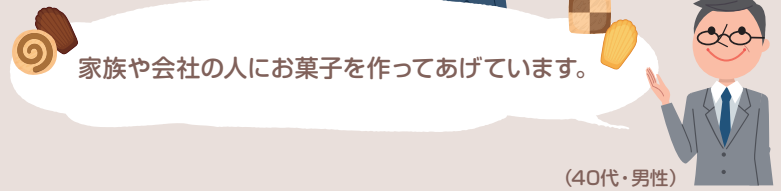
※1 出典 大阪市HPより抜粋

社員アンケート

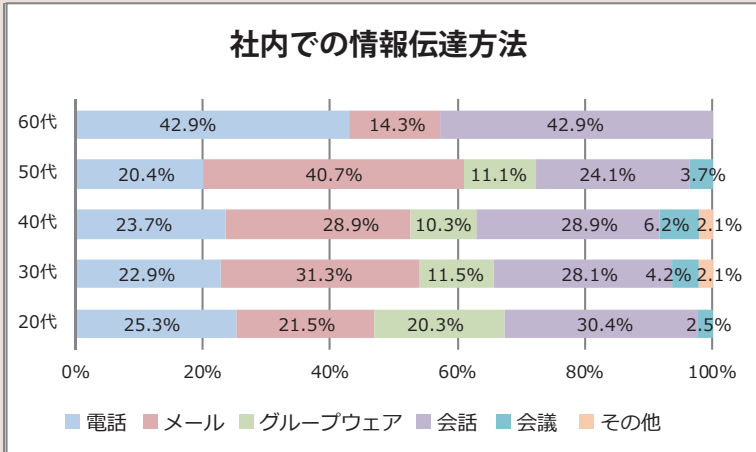
社員の皆さんに聞きました!

# コミュニケーション どうしてる?

コミュニケーションのとり方や時間は千差万別。そこで今回は、オオスミ社員の皆さんに、社内・家族間でのコミュニケーションについてアンケートを実施しました!



(40代・男性)

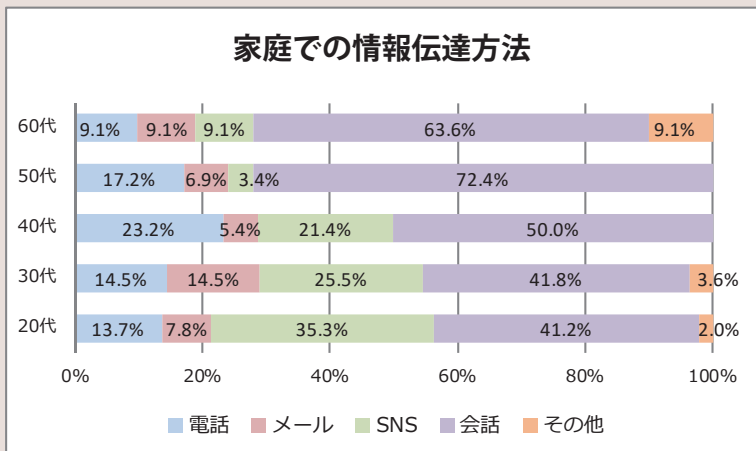


20代・30代の若手はグループウェア(社内情報共有システム)を利用している人が多くいました。50代が会話よりもメールを多く利用しているのは面白い結果ですね。



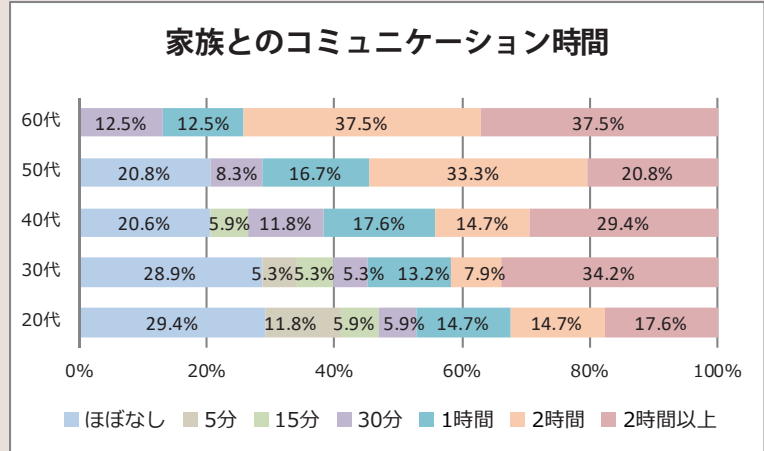
近所に住んでいる社員の人たちで  
ご近所飲み会を開いています。

(20代・女性)



家族間のコミュニケーションツールは、「直接の会話」を選ぶ社員が多い傾向にありました。その他を選んだ人の中には「ペットともコミュニケーションをとっています」というコメントも!!

- ・休日の朝と夜に、両親に健康状態の確認の電話をしています。(50代・女性)
- ・2か月に1度、高校時代の部活のOB会で飲み会を開催しています。(50代・男性)
- ・友人や家族、職場の方々とオンラインゲームを行っています。(20代・女性)



20代の社員は一人暮らしが多いためか、時間は短くなる傾向になりました。それでも多くの人が、忙しい毎日の中で、家族とのコミュニケーションを大事にしているようですね。



月に一度、職場の人と土曜日の朝に  
植物と鳥の調査ボランティアに参加しています。

(30代・男性)



会社では「情報を拡散・共有・意見交換」することなどが目的のため、メールや電話など、状況に合わせて使い分けてコミュニケーションをとっているようです。それとは逆に、家族とは情報伝達というよりも「コミュニケーションをとること」自体を大切にしているため、直接の会話でコミュニケーションをとっている人の割合が高くなったようです。

直接の会話が多い世代ほど、コミュニケーションの時間を2時間以上とっている人が多くなりました。オオスミでは、測定・サンプリングなどで外出している人が多く、直接の会話がとりづらい状況が多々あります。方法を工夫しながら、「コミュニケーション」を大切にしていきたいと思います。

## 気遣いと協力が 私たちのコミュニケーション

オオスミの社内でも、様々な「コミュニケーション」が見つかりました!

こんなところで見つけた!

郵便局の方々に



「Thank you Postman!」

証明書が商品となるため紙が命! 毎日集配に来てくれる郵便局の方々に感謝をこめて、ささやかなメッセージを入れています。

新社員の皆さんが発表として自己紹介クイズを披露。会場が大いに盛り上がりました!

新入社員歓迎会



全社運動会

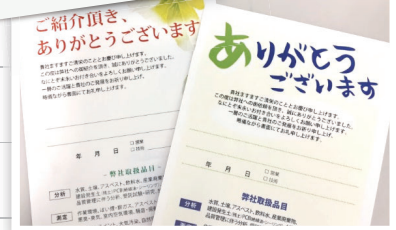


チームはオオスミのイメージカラーで分けました。

大角社長には色紙のプレゼントも。

社員のみならず運動会! 2チームに分かれて得点を競いました。家族も加わり大盛況! 大いに体を動かしました。

お客様に



初めてご依頼やご紹介頂いた際に営業担当よりお客様へお礼のお葉書を送らせて頂いております。少しでもお客様へ感謝の気持ちが伝われば幸いです。

オオスミの取り組み

活動報告

オオスミでは通常の業務に加え、様々な活動を行っています。このコーナーでは活動の一部をご紹介します。

横浜運河パレード～地域住民との交流～

オオスミが参画している、NPO法人Hamabridge 濱橋会の主催する横浜運河パレードに、プロボノ活動（専門性を活かしたボランティア活動）として参加しました。

大岡川をもっと身近に感じてもらうための生き物観察コーナーやオオスミの得意な環境分析を簡易的に体験できるコーナーなどのブースは、来場者が楽しみながら大岡川の環境と環境分析について学べることを目指しました。

400倍の実体顕微鏡で見るミカヅキモやブラナリアは特に人気で、子供から大人まで興味津々でした！普段は接する機会のない地域住民の方々と交流ができ、自分たちの仕事を一部でも紹介できたことを嬉しく思いました。当日はあいにくの雨模

様でしたが、多くの来場者の方々に訪れてもらいました。

分析技術グループ 石川 潤



清掃ボランティアSAKURAクリーン作戦2018

オオスミでは、定期的に清掃ボランティア活動を行っています。その一環として、2018年4月8日(日)に代官山エリアのSAKURAクリーン作戦2018に参加しました。中目黒駅をスタート地点として、目黒川兩岸の桜並木を往復し、代官山駅付近までゴミを拾って歩くというイベントです。年度替わりの慌ただしい時期ではありましたが、新入社員5人をはじめ社員16人、社員の家族7人、合わせて23人が集まりました。

目黒川沿いの桜は残念ながら殆ど散ってしまい、人の通りもそれほど多くはありませんでした。

最初のうちはゴミもあまり落ちていないかと思ったのですが、注意して探し始めると色々な場所にゴミは隠れているものです。目黒川を離れて代官山駅に向かう頃には、大きなゴミ袋に半分以上集まりました。

私達は都心で仕事をする機会が多いのですが、このような形で新緑の河畔を歩くのは初めてで、非常に気持ちが良い貴重な体験となりました。

調査第一グループ 野島 靖太

CSRプロジェクト



CSR活動は今までも行っていましたが、横浜型地域貢献企業の認定制度に取り組もうとする中で、一緒に働く仲間たちがより働きやすい環境を創るべく、社内の有志とともに「CSRプロジェクト」を結成しました。

プロジェクトでは、1時間単位で有給休暇を取得できる制度や3階テラスを打合せスペースとして活用することを検討し、実際に整備を進めています。

また、社長に伺ったお話ですが、4階食堂をノマドスペースや昼以外にも使えるカフェスペースとして改装し、社員がよりクリエイティブに仕事ができるようにするという構想があるようです。

なお、51期からは全社一斉ノー残業デーの実施や健康セミナーの実施も予定しています。

今後もCSR活動を推進し働きやすい職場を創ってまいりますので、よろしくお願いします。

CSRプロジェクト責任者 工藤 繁昭



新人コーナー

社会人として

この春、新しく社員が5名入社しました。3月まで学生だった彼らは、初めて社会に出たことで環境が変わり、これまでとは違う考え方やコミュニケーションを知りました。そうした中で、彼ら自身が現在、仕事やコミュニケーションについてどのようなことを感じているのか、インタビューを行いました！

学生時代とは違った一人暮らし



調査第一グループ 大久保 雄

私は本社周辺で一人暮らしをしています。実家も近いので頻りに帰っています。仕事をしながらの家事はとて大変なので、家族のありがたみが強く感じられます。仕事でも周囲の方へ感謝の気持ちを忘れないように取り組み、一人ひとりが魅力あるオオスミ社員として信頼されるようになりたいです。

スピードを意識して効率よく



調査第一グループ 川村 梨乃

学生時代と比べて社会人になってからはスピードを意識するようになりました。学生時代は時間がかかったとしても正確に作業を行うことが大切だと考えていましたが、社会人になってからは効率よく作業するにはどうしたら良いか、数分の間でも何かできることはないかと、正確に行うことだけでなくスピードを意識して行動するようにしています。

お客様とかかわって見えてきたこと



調査第二グループ 千葉 淳

現場に行った際、集合住宅の室内環境改善により、そこに住む数千人規模の人々が快適に過ごせるようになったと聞き、自身が携わった業務が人々の役に立つことにやりがいを感じました。私も今後の業務を通じて知識やスキルを得ることで、多くの人々にとって役立つ人材を目指したいと思います。

3つのポイントを意識した話し方



総務グループ 西村 彩香

学生時代と現在とで周囲の人との接し方で変わった点は、「話し方」です。お客様や社員の方と話をする際、クッション言葉などを使い丁寧な言葉づかいをすること、正確に用件が伝わるよう結論から簡潔に話すこと、声のトーンを高くすること。この3点を意識して話をするようにしています。

メモを取る習慣とメモを持ち歩く習慣



分析技術グループ 二宮 有佳梨

どんな些細な事でも先輩社員から教えて頂いた事や気づいた事をメモするように心掛けています。一度自分で文字として書き出す事で記憶に残り、見返した時に思い出しやすくなります。また、いつでもメモできるようノートだけでなくバインダーを常に持ち歩いて行動しています。

NEWS オオスマニユース

## 創業50周年を迎えました!



オオスマは2018年11月で創業50周年となりました。これまで支えていただいた皆さまに感謝致します。

### 創業50周年記念行事

昨年、創業50周年を祝い創業50周年式典とパーティーを開きました。パーティーでは「オオスマ」「50年」「環境」をモチーフとして様々な工夫を凝らしました。オオスマをイメージしたカクテルや料理、オオスマブルーや横浜の市花であるバラを取り入れた装飾、新ユニフォームのお披露目ファッションショーなど、大盛況でした。



青い物を身につけるというドレスコードのもと、当日のサプライズで「オオスマブルー賞」が授与されました。

### ふるしきプロジェクト

創業50周年の記念品としてオオスマオリジナル「ふるしき」をつくりました。エコで環境にやさしく、いつでも持ち歩いて皆さまに寄り添うもの、という想いがこめられています。1枚1枚手染めで、デザイン、生地も1から作り上げたものとなっています。つつみ方などをHPでご紹介しています。

ふるしきプロジェクト  
THE FUROSHIKI  
ホームページ



## 受動喫煙対策のための測定を行っています

受動喫煙防止の観点では、世界的に見ると日本はまだまだ対策が遅れており、WHOによる受動喫煙政策の評価によれば、4段階中で最低ランクです。これを受けて健康増進法の一部を改正する法律が可決されました。また、東京都でも、オリンピック・パラリンピックに向け、受動喫煙防止条例が可決されました。どちらも2020年4月の全面施行に向けて、段階的に実施されていきます。

学校・病院・交通機関などは敷地内禁煙（一部屋外喫煙場所設置可）、上記以外の多数の人が利用する施設については原則屋内禁煙（喫煙専用室内でのみ喫煙可）となります。

特に飲食店について、都条例は法よりも厳しい内容となっており、全ての店が規模を問わず（一部例外を除いて）規制対象となります。

こうした状況を受けてオオスマでは、厚生労働省通達による喫煙対策のためのガイドラインで示される分煙効果判定のための空気環境測定を始めました。現況を把握したいなどお困りの事がございましたら、是非お問合せ下さい。



## 『悪臭の原因調査・対策』を始めました

何の臭いかわからないが、発生原因を調べてほしい。悪臭でクレームになっているので対策をしてほしい。このようなお問い合わせを頂くケースが増えてきています。

背景として、高気密高断熱化が進み、昔に比べて臭気が抜けにくくなったことや、生活意識の向上により臭気への意識が高くなったことが要因として考えられます。臭気は約40万種類もあるといわれており、さらに不定期に発生したり、臭いの強弱があったりと、様々な条件で発生するため、一度発生すると専門知識がないと解決するには困難を極めます。

こうしたお客様のご要望にお応えするため、今年からオオスマでは、臭気原因調査・対策業務を始めました。



オオスマでは、定期的に臭気勉強会を行い、さらなる技術力の向上及びサービスの徹底に努めてまいります。

## 100年後の社員に伝えたい オオスマの活動



オオスマでは、「工夫」に部署間の境はない!という考え方にに基づき、営業、技術、総務という部署に関係なく、「ひと工夫活動」を実施しています。「ひと工夫活動」とは、業務を進める際に起きた問題点や、課題について、解決策を考え、その結果どうなったかを「ひと工夫」として分かりやすく文書化し、蓄え、全社員で共有することで、「先人の知恵」として活用しているものです。

選ばれた「ひと工夫」は発表会で考案者が全社員に向けて発表します。工夫が生まれた経緯や結果を共有することで新たな工夫が生まれやすくしています。特に優れた「ひと工夫」には最優秀賞、優秀賞などの表彰を行っています。

業務を遂行するにあたって障害となる事項の克服  
自分が考える常識は、人の常識とは限らない。10人が読んで1人が「なるほど」と感じられればOK!



## 私たち「地球のドクター」の仕事

企画提案・セミナー・コンサル

調査・測定・分析

対策・工事・販売

A 環境保全事業	水、土壌、大気、騒音・振動、アスベスト、PCBなど
B 労働安全衛生型環境事業	作業環境測定、個人暴露測定など
C エネルギーソリューション	地球温暖化対策、省エネ診断など
D 製品・材料試験事業	材料・異物分析、受託・研究、ゆあらば、こらぼなど
E 環境関連商品等販売事業	化学工業薬品、環境関連商品、省エネ対策商品など

地球のドクター  
メッセージムービー



すべての事業分野における膨大なソリューション。これはオオスマが培ってきた強みです。

### 株式会社オオスマ

本社  
〒246-0008 横浜市瀬谷区五貫目町20-17  
TEL **045-924-1050**

東京支店  
〒101-0064 千代田区神田猿樂町2-1-14 A&Xビル 5F  
TEL **03-3219-5021**

### 編集後記

編集委員6名で制作した今回のテーマは「コミュニケーション」。書きやすいテーマだと思っていましたが、「コミュニケーションとは改めて何なのか」「オオスマならではのコミュニケーションとは?」と考えることが多くありました。全社員の協力で完成したイヤーズブックを通して、オオスマのことをもっと知って頂けたら嬉しいです。

(編集委員一同)

### ? オースマイルって?

o-smile は造語ですが、分解すると『o』と『smile』に分けられます。この『o』は株式会社オオスマの頭文字。『smile』は字のごとく笑顔です。Oのsmile、つまり私たちオオスマで働く人間は、常に心に笑顔を持っていたいと思うからこのような名前になりました。

